

令和7年度 第4回まちづくりミーティング

日時：令和7年11月17日（月）10：30～11：30

場所：三和荘 創作室

団体：トーキョーコーヒー福知山

○主な話し合いの内容

団体： トーキョーコーヒーとは、「登校拒否」のアナグラムである。学校に行かないことを選択することもたちのアクションを受けて、「大人の無理解」という視点から大人たちが全力で楽しむ場を提供している。全国では約400か所の拠点がある中、ここでは2024年2月から活動を開始しており、北近畿ではこの福知山での活動が数少ない拠点の1つである。

【意見交換】

市長： トーキョーコーヒー福知山としての活動構成員はどのくらいいらっしゃるのか。

団体： イベントごとに場所や内容を紹介して活動者を募って、興味がある方に参加をしていただいている。また、それぞれの地域で活動されているイベントなどにも参加したりしており、私たちとしてはその活動1つ1つが“トーキョーコーヒー”であると考えている

市長： 同じことで悩んでいる方々がお互いに話し合う場があることは当事者の方にとって本当に心強いと考える。行政としても「多様な学び」「心の居場所づくり」など事業に取り組んでいるが、学校や保護者の方々も一緒に現場を変えていきたいと考えている。特に市長就任当時は、対応としては【学校復帰】のみであったが、学校側の考え方も変わってきており、SIROラボの設置などにつながっている。

団体： 良いことでぜひ引き続き続けてほしいが、学校に居場所を作ることもすごく大切だと感じている。

市長 行政だけで進めていくことには限界があると常々感じており、「オレンジのまちづくり」や「ベビーファスト宣言」など、1人1人が大切にされるまちづくりを進める中でも地域での取組みが重要だと考える。

団体： どちらの事業も良いと感じており、すぐに結果は出なくても種まきをすることで将来のまちづくりにつながっていくのではないかと思う。例えば、「語らいらぼ」で出会ったことで、意気投合していくこともある。行政により種まきが地域の中で発展していくことが多いと思う。

市長： 行政の取り組んでいる内容を皆さんに知っていただくことも非常に重要だと考えており、課題に感じているところである。子育て支援団体の方々と意見交換をさせていただく中でも、その点について多く指摘を受けているところであり現在

強化していきたいと考えている。Instagramを中心にして子育てに関する情報発信を行っていく準備段階である。

団体： 準備期間が必要なことも十分理解するので、ぜひ取組みを進めていただきたい。一方で「財政難」という言葉だけが市民の中にも広がっており、不安に感じている部分もある。しっかり状況や内容まで理解をしていただくことが必要であると考える。

市長： 職員も含めて「財政難」＝「お金がない」という安易な考え方、市民の皆様に対応している部分も少なからずあると感じており、まずは財政課に所属している職員以外の職員もしっかり内容を理解することが重要で、早急に対応を予定しているところである。財政に限らず「広報」については就任当時から変革したいと考えているが、まだまだあると感じている。今年度は2040年市民会議や「くらしのスケッチ」(オンラインプラットフォーム)の設置など御意見をいただく場を作っているところである。

団体： 市民の皆さんに市のことを見つめることは、確かに難しいと思う。意見を言える場があることは非常に良いと思うが、子どもたちの意見が言える場などがあるとさらに良いように感じる。子どもたちが将来市外に出ていくことがあっても「福知山市に帰りたい」という気持ちになるには、「人」と「教育」にかかっていると思っており、そういう取組みを進めてほしい。

市長： 子どもたちの「体験」は特に大切にしているところで、万博に行くことや短期留学に加えて、市内での体験も重要だと思っている。自分自身も昔大雲橋の下で泳いだことなど覚えていて、様々な体験が何かしらの糧になっていってほしいという想いを持っている。

団体： ぜひ今後も大人たちの事情を優先するのではなく、「子どもたちにとって、どの方法が良いか」という目線で特に教育分野の施策を進めてほしいと感じている。

